

《担当者名》○本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 坂上哲可 桜庭聡 齋藤隆司

【概要】

作業療法は、身体機能障害に特有な疾患が生じて心身両面を包括的に関わるのが重要である。本講義では、脳血管疾患、脊髄損傷、骨折・切断、心疾患、悪性新生物、関節リウマチ、神経変性疾患、神経・筋疾患の各疾患に特有の検査・評価を学修することと、全ての疾患に使用できる面接評価を学ぶ。

【学修目標】

【一般目標】

1. 身体機能作業療法の脳血管疾患、脊髄損傷、骨折・切断、心疾患、悪性新生物、関節リウマチ、神経変性疾患、神経・筋疾患に対する評価法を理解する。

2. 面接や観察による評価を理解する。

【行動目標】

1. 各疾患の作業療法評価を説明できる。

2. 面接や観察の評価を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	脳血管障害の評価(1)	脳血管障害の評価に最低限必要な関連知識や機器・ラインを学ぶ。	本家寿洋
2	脳血管障害の評価(2)	Brunnstrom recovery Stage と上田式片麻痺機能テストを学ぶ。	本家寿洋
3	脳血管障害の評価(3)	片麻痺患者における戦略的な行動システムを学ぶ。	本家寿洋
4	脳血管障害の評価(4)	脳血管障害の急性期の評価を学ぶ。	本家寿洋
5	脳血管障害の評価(5)	脳血管障害の回復期・維持期の評価を学ぶ。	本家寿洋
6	神経変性疾患の評価(1)	SCDとALSの作業療法評価を学ぶ。	本家寿洋
7	神経変性疾患の評価(2)	パーキンソン病の作業療法評価を学ぶ。	齋藤隆司
8	心疾患・呼吸器疾患の作業療法	心疾患および呼吸器疾患の作業療法の評価を学ぶ。	齋藤隆司
9	神経・筋疾患の評価	ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症の作業療法評価を学ぶ。	桜庭聡
10	関節リウマチの評価	関節リウマチの作業療法評価を学ぶ。	坂上哲可
11	カナダ作業遂行モデル	カナダ作業遂行モデルとCOPMの評価法を学ぶ。	本家寿洋
12	面接による評価(1)	QOL-26とSF-36の評価法を学ぶ。	本家寿洋
13	面接による評価(2)	絵カード評価法、包括的環境要因評価法を学ぶ。	本家寿洋
14	面接による評価(3)	OPHI - の評価法を学ぶ。	本家寿洋
15	面接による評価(4)	高齢者版・余暇活動の楽しさ評価法を学ぶ。	本家寿洋

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験100%で評価する。

【教科書】

能登真一 他 編 「作業療法評価学 第3版」 医学書院 2017年

【参考書】

吉川ひろみ 他 編 「作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド」 医学書院 2014年

澤俊二 他 編 「作業療法評価のエッセンス」 医歯薬出版 2013年

小林隆司 編 「身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編」 羊土社 2019年

小林隆司 編 「身体障害作業療法学2 内部疾患編」 羊土社 2019年

長崎重信 監修 「作業療法ゴールドマスターテキスト3 作業療法評価学」 メジカルビュー社 2012年
Karen Schultz 著 「シュルツ・上肢の痛みの評価法」 協同医書出版 2003年
日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学」 協同医書出版 2010年
坪田貞子 編 「身体作業療法クイックリファレンス」 文光堂 2010年

【学修の準備】

1. 次の講義の該当部分の教科書を事前に読んだうえで講義に臨む（80分）。
2. その日に講義した内容は説明できるようにする（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

本家寿洋(作業療法士) 坂上哲可(作業療法士) 桜庭聡(作業療法士) 齋藤隆司(作業療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かして講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している